

とびっくす

ちーたんの館がリニューアル! 原寸大骨格模型を公開

4月29日、丹波竜化石工房「ちーたんの館」のリニューアルオープンに1500人が訪れました。国内最大級の植物食恐竜「丹波竜」の原寸大の骨格模型（全長15m、高さ3.5m）を公開。そのほかにも、丹波竜と同じ地層から見つかったトカゲや哺乳類、カエル類はじめで学名がついた新属新種「ヒヨウゴバトラクス・ワダイ」などが展示されています。

訪れた人は「丹波竜の大きさを改めて感じた。今にも動き出しそうで、恐竜が確かに生きていたことを実感した」とリアルさと迫力に驚いていました。



原寸大の丹波竜の骨格模型

- 田ステ女俳句ラリー - 今年も力作ぞろい!

5月8日、「第20回田ステ女俳句ラリー」が開催され、参加者132人は、木の根橋や柏原藩陣屋跡などを巡りながら句を詠みました。

大賞の「ステ女賞」には、高砂市中水大介さんの作品「夏蝶のとんで捨女の句集かな」が選ばされました。



熱心に句を詠む参加者たち。

1人でも多くの人の命を救うために 合同山岳救助訓練を実施しました

市消防本部と県消防防災航空隊は、合同山岳救助訓練を行いました。訓練は山南町南中の「南中大岩」で実施され、負傷者役の男性2名を救助。市と県は救助技術や手順、互いの連携を確認しました。



足場が悪く、険しい山岳地帯での救助訓練に臨む消防隊員たち



丹波竜について学ぶタッチパネルモニターを設置



新属新種のカエルの化石など新たな展示物も追加

丹波市を元気に!

地域おこし協力隊2人が着任

丹波市の地域活性化を担う「地域おこし協力隊」2人が着任されました。

1人目の八木下和さんは、市内企業や地域が求め人材の情報を発信し、移住・定住者に仕事面からアプローチします。2人目の清谷啓仁さんは、丹波布の魅力発信や販路拡大など、伝統技術を活かしたまちづくりに取り組みます。

「地域で働くことの魅力を自らの体験を通じて発信していきたい（八木下さん）」「丹波市と言えば、丹波布の産地と言われる存在にしたい（清谷さん）」とそれぞれ意気込みを語ってくれました。



(写真左から) 着任した清谷啓仁さん、八木下さんと辻市長

「熊本地震」でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々、ご家族・関係者のみなさまに心からお見舞いを申し上げます。
兵庫県をはじめ関係機関と連携し、積極的に支援を行います。
市民のみなさまのご理解・ご協力をお願いいたします。

支援要請を受け

救援隊・家屋被害認定士など職員を派遣

4月14日午後9時26分ごろ、熊本県熊本地方を震源とする震度7の地震が発生しました。続く16日前1時25分ごろにも同地方を震源とする震度7の地震が発生。震度7は、日本では過去3回観測されただけの非常に激しい揺れです。余震も続いている、震度1以上地震は1,300回を超えていた。この地震で熊本県は、死者67人、建物被害5万8千棟を超える甚大な被害を受けました。今までの方が避難生活をされています。一日も早い復旧・復興ができるよう県と連携をとり、積極的に支援を行っています。

緊急消防援助隊兵庫県隊として活動員2人および家屋被害認定士4人を派遣しました。その他、国・県からの職員派遣や救援物資の要請などに対応できるよう、準備を整えています。

「熊本地震義援金」にご協力をお願いします

[募金箱設置箇所]
*丹波市役所
(本庁・各支所・そのほか市内公共施設)
*社会福祉協議会
(本所・各支所)

問 社会福祉課(春日庁舎内) ☎ 74-1130



緊急消防援助隊兵庫県隊として活動



- 丹波市消防団初出式 -

地域の消防力が結集!

平成28年度丹波市消防団初出式が4月17日に行われ、340人の消防団員が氷上住民センターに集結しました。

岩澤宏一団長は、「すべての団員が同じ志をもって消防活動にまい進し、地域防災においてさらなる貢献をしていきたい」と訓示し、防災の要として消防団員が一致団結して地域の安全を守る覚悟を胸に刻みました。

熊本県益城町で避難所運営

4月27日から5月4日まで熊本県益城町の総合体育館で避難所運営を行いました。

現地は、すでに夏日が続いている。気温が高く、食中毒や衛生状態が心配でした。

水道が使用できない状態での帰宅は難しく、まずはライフルインの復旧が重要だと思いました。

